

わたしたちの防災体験記

もし、大災害が発生したら、私たちの生活はどうなるでしょうか。そのときは子どもたちにも知恵と力が必要になってきます。
 そのような観点から、富丘少年消防クラブは、独創的な体験活動を行っています。
 今月は、クラブ員の皆さんに、体験活動の内容を紹介していただきます。

みなさん、こんにちは。
 わたしたちが富丘少年消防クラブです。

クラブ員は、小学4～6年生の28人です。クラブの活動を支えてくれる指導者とOB（クラブを卒業した中学生以上の人たち）もいて、いつも楽しくにぎやかに活動しています。これから、初めて行ったオーバーナイト体験、ムロ体験を中心に、私たち富丘少年消防クラブの活動を紹介します。

少年消防クラブとは…

少年消防クラブは全国で組織され、札幌市では昭和60年に発足しました。現在、市内には51クラブ、男女合計約1,200人がいろいろな活動をしています。主な活動は、消火・手当てなどの各種講習会への参加、防災パトロールや奉仕活動などです。なお、区内では、現在6つの少年消防クラブが活動しています。
 お問い合わせは、お近くの消防署へ。



オーバーナイト体験

オーバーナイト体験って？



▲暗闇での頼りは懐中電灯のみ



▲カップめんの温かさにホッとしました

火事や地震、洪水などで家を無くしたり、住めない状態になった時、避難所に行きますが、そこではどうすればいいのでしょうか。オーバーナイト体験はそのような時のための「避難所シミュレーション実験」です。

今回のオーバーナイト体験は、西宮の沢小学校体育館で行い、子どもからお年寄りまで82人が参加しました。

参加者には事前に、「真冬に、電気や水の使えない場所で行います。避難所で必要だと考える物や道具を持参してください」と話しておき、参加した皆さんは、思い思いの持ち物や道具を持って会場にきました。

最低気温が氷点下8度まで下がった当日、参加者は防寒着に身を包み、夕食の準備をしたり、防災の話に耳を傾けたりして「実際に避難した時にはどのように行動したらよいのか」を真剣に考えていました。

寒かったけど、簡易トイレを使ったり、真っ暗な中一晩寝たりと特別な体験、貴重な体験がたくさんできたと思います。地震などの災害のときにオーバーナイト体験での知識を役立てたいと思います。



オーバーナイト体験のスケジュール

平成18年 1月 8日(日)

15:40 開始
 段ボール200枚の配付

16:00 主催者側の内容説明
 簡易トイレの使用法の説明

16:45 夕食の配給
 アルファ米のごはんと缶入りパンが、夕食として一人に一つずつ配られる

17:30～18:30 夕食

19:30 企画の開始
 ・防災グッズコンテスト
 ・防災クイズ
 ・カルタ
 ・消防クラブによる紙芝居
 ・通電火災予防の話

21:00 企画終了
 その後各自就寝した

平成18年 1月 9日(月)

7:00 思い思いに起きる
 朝食（カップめん）
 中央に集まり食事をしながら、これまでの感想を話し合う

8:30 解散